

令和6年度全国学力学習状況調査結果(中学校)

和光市教育委員会調査結果概要

◆教科に関する調査結果

<中学校概要>

平均正答率(単位%)

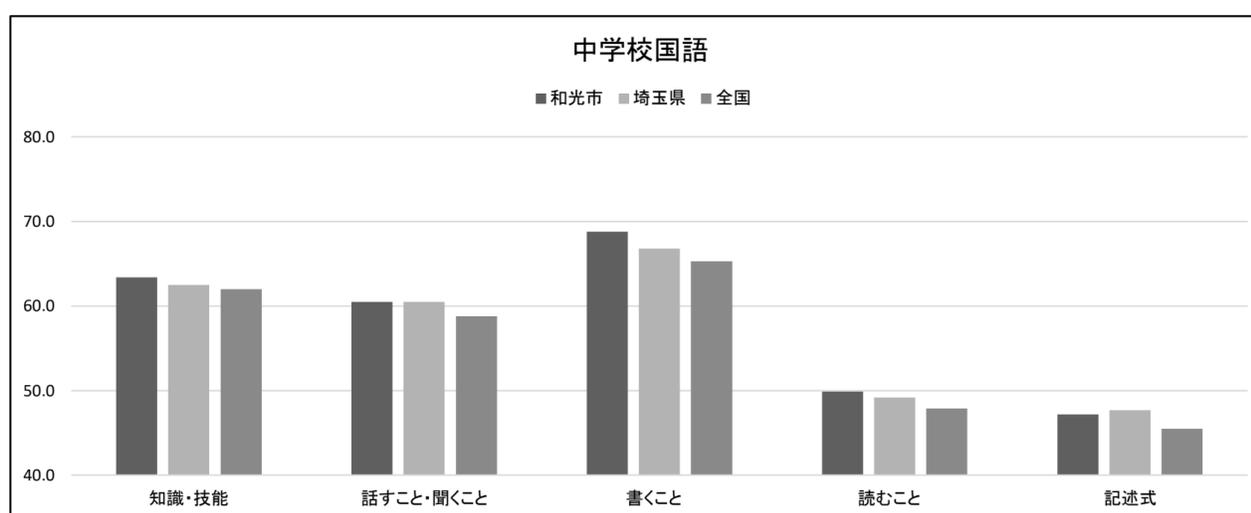
教科	和光市	埼玉県	全国	県差	全国差
国語	60.0	59.0	58.1	1.0	1.9
数学	58.0	53.0	52.5	5.0	5.5
英語				0.0	0.0

○全教科で、県平均、全国平均を上回っている。

<中学校国語>

平均正答率(単位%)

学習指導要領の領域等での区分	和光市	埼玉県	全国	県差	全国差
知識・技能	63.4	62.5	62.0	0.9	1.4
話すこと・聞くこと	60.5	60.5	58.8	0.0	1.7
書くこと	68.8	66.8	65.3	2.0	3.5
読むこと	49.9	49.2	47.9	0.7	2.0
記述式	47.2	47.7	45.5	▲ 0.5	1.7



○【全体】

・ほとんどの領域において、全国平均・県平均を上回っている。
 ・自分の考えを記述することについては、以前は無回答も多かったが、記述するようになってきている。指導事項の系統性に留意しながら、言語活動をさらに工夫していく必要がある。

○【知識・技能】

・情報の取扱いに関する事項の正答率が低かった。日頃より、意見と根拠、具体と抽象など、情報と情報の関係を文脈の中からとらえさせることを意識して指導していく必要がある。

○【話すこと・聞くこと】

・自分の考えが話し合いの話題や発言の内容とどのように結びついているのか、つながりがわかるようにまとめることに課題がある。互いの発言を結び付け、話し合った内容を踏まえて自分の考えをまとめられるように指導することが大切である。

○【書くこと】

・目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることはよくできている。表現の効果を考えて記述するなど、自分の考えが伝わる文章が書けるよう指導していく必要がある。

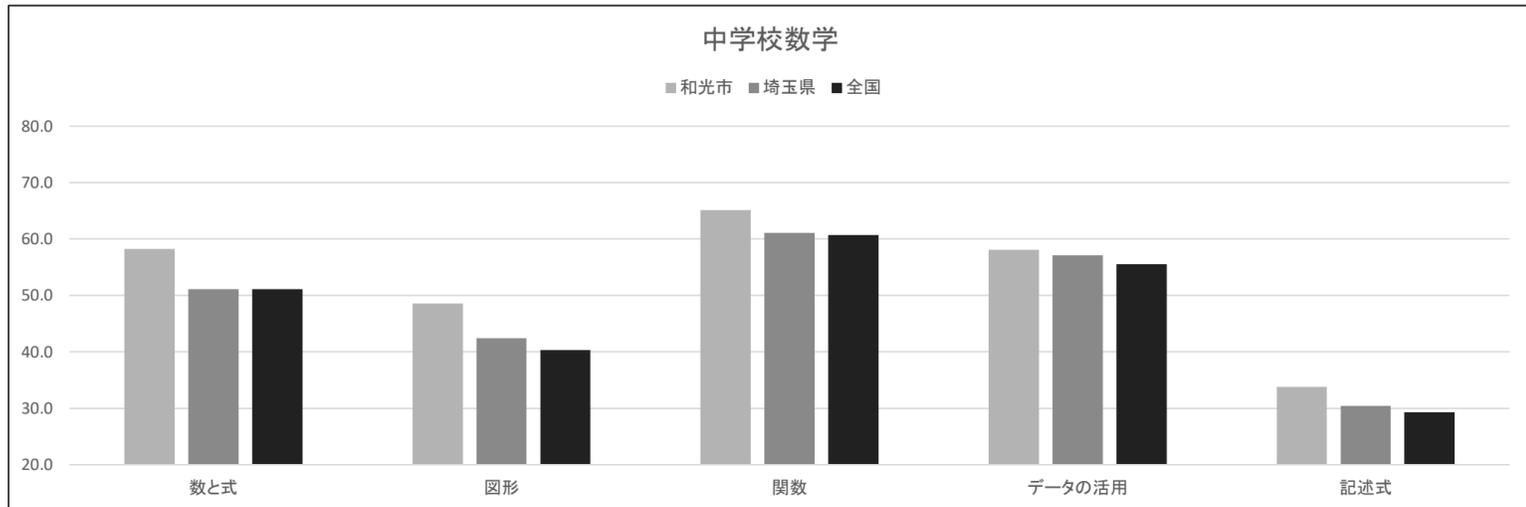
○【読むこと】

・文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することや、目的に応じて必要な情報に着目して要約することに課題がある。要約する目的や必要に応じて、内容や分量、方法が異なるということを理解し、適切に要約することができるように指導していく必要がある。

<中学校数学>

平均正答率(単位%)

学習指導要領の領域等での区分	和光市	埼玉県	全国	県差	全国差
数と式	58.2	51.1	51.1	7.1	7.1
図形	48.6	42.4	40.3	6.2	8.3
関数	65.1	61.1	60.7	4.0	4.4
データの活用	58.1	57.1	55.5	1.0	2.6
記述式	33.8	30.4	29.3	3.4	4.5



○【全体】

・すべての領域で全国・県平均を上回っている。
 ・基礎的・基本的な知識・技能は身につけていると考えられるので、解決の過程や判断の理由などを数学的に表現できるような指導を重視していく必要がある。

○【A数と式】

・基本的な正負の計算は出来ているが、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明することには課題がある。解決の過程や結果を振り返り、統合的・発展的に考察できるように指導していく必要がある。

○【B図形】

・筋道を立てて考え、証明することに課題がある。事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見出すなど、統合的・発展的に考察する場面を授業で意図的に取り組んでいく必要がある。

○【C関数】

・グラフの交点や傾きの意味を、事象に即して解釈することはできているが、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題がある。授業の中で、表、式、グラフなどの用い方について数学的に説明できるように指導したり、表現が不十分な説明を補足する活動を取り入れたりする必要がある。

○【Dデータの活用】

・複数の集団のデータの分布の傾向を比較してとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに引き続き課題がある。データの傾向を比較して読み取る活動や判断の理由を説明し合う活動を授業の中で充実させる必要がある。また小学校段階で、グラフが表すデータを言葉と数を使って表現する力を着実に身に付けさせていきたい。